

定例記者会見(5月)

－ワンポイント講座－
線状降水帯予測の取り組みについて

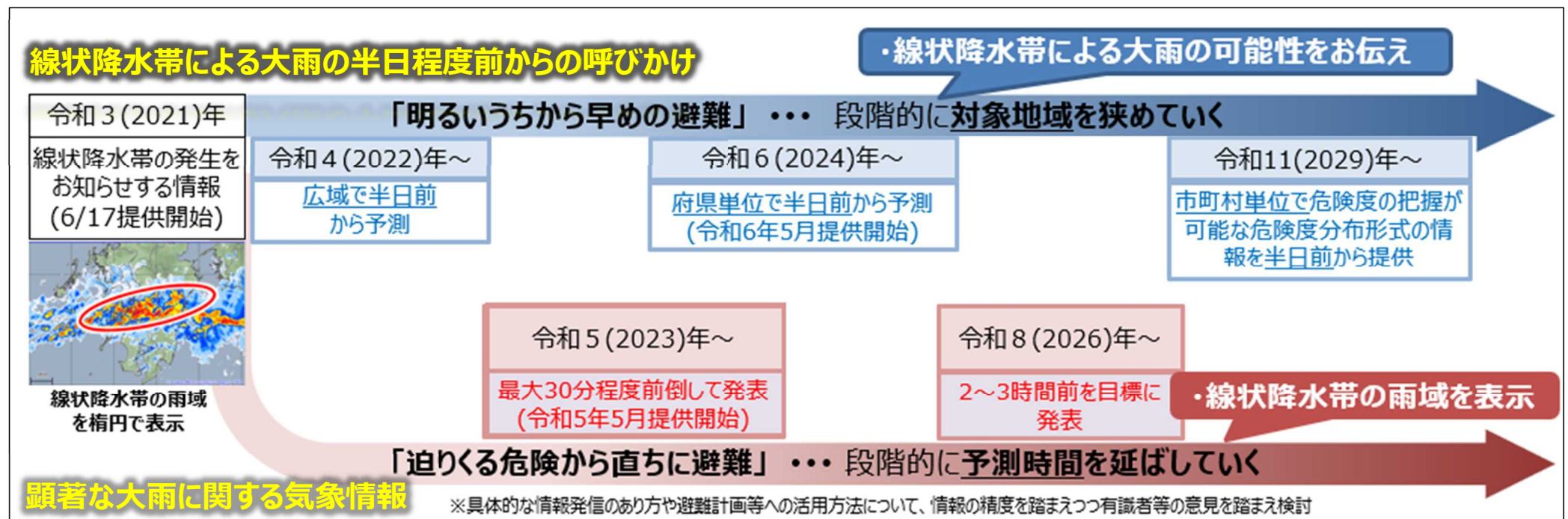
令和7年5月20日
福岡管区気象台気象防災部予報課

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなし数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、長さ50～300km程度、幅20～50km程度の線状に伸びる強い降水域です。

線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

線状降水帯に関する気象情報の流れ



大雨に関する福岡県気象情報 第4号

令和6年7月5日05時00分 福岡管区气象台発表

<見出し>

福岡県では、5日夜には、**線状降水帯**が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

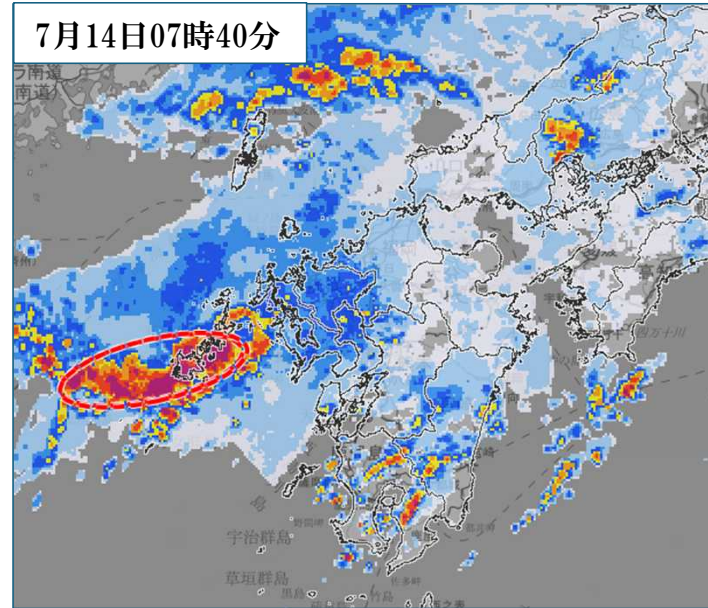
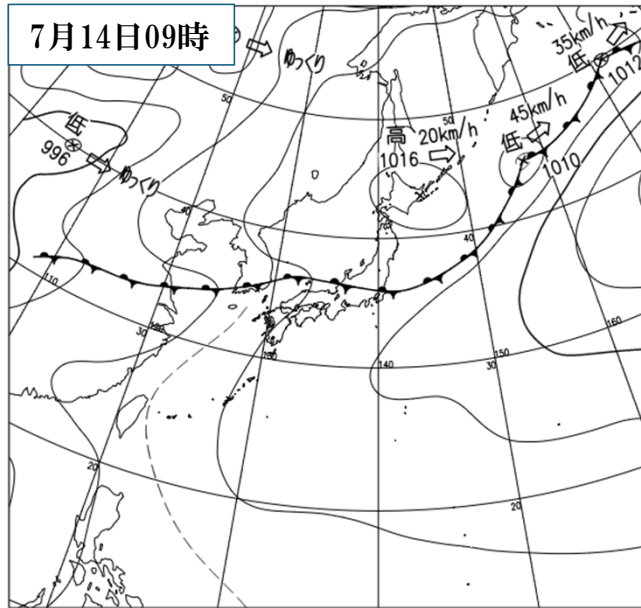
<本文>

……(中略)……

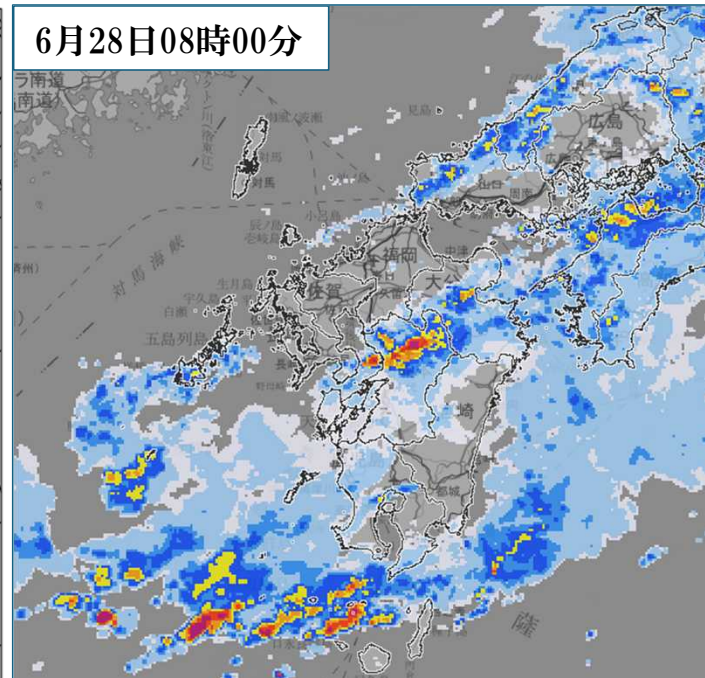
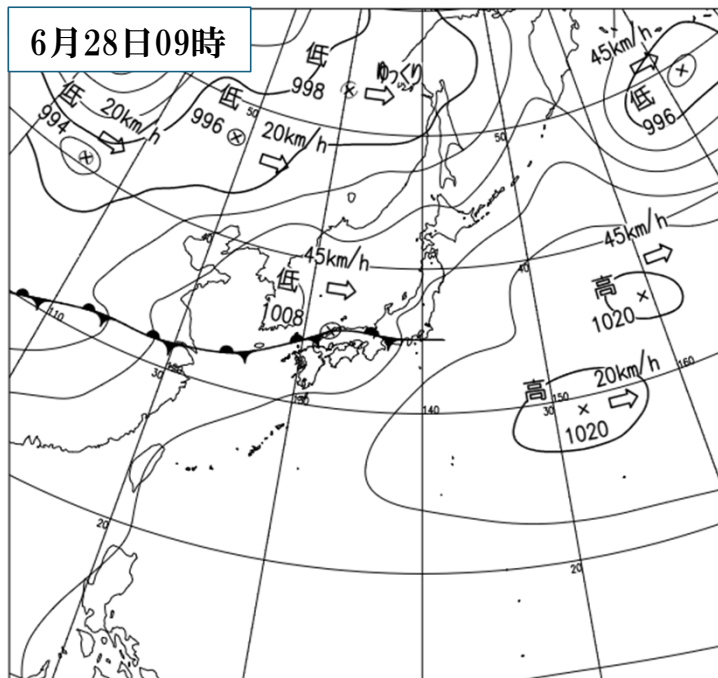
線状降水帯による大雨を
半日程度前から呼びかける気象情報の例

令和6年の線状降水帯半日程度前からの呼びかけ ⇒ 線状降水帯が発生した事例

※顕著な大雨に関する気象情報を発表



令和6年の線状降水帯半日程度前からの呼びかけを行った事例



九州北部地方では線状降水帯が発生していなかったが、熊本県で大雨となった。
前日の予想以上に暖かく湿った空気が九州南岸に集まり、九州南岸に強い降水域が広がった。

令和6年度の半日程度前からの呼びかけを行った結果

府県単位でのとりまとめ結果	運用開始前の想定 (2023年のデータから検証)	全国 (九州)
適中 線状降水帯発生呼びかけ「あり」のうち 線状降水帯の発生「あり」	4回に1回程度	81回中8回 (28回中5回)
捕捉 線状降水帯の発生「あり」のうち 線状降水帯発生呼びかけ「あり」	2回に1回程度	21回中8回 (8回中5回)

適中以外に3時間降水量が100mm以上となったのは27回

⇒全国では81回発表した中で35回は100mm以上

⇒九州では28回発表した中で16回が100mm以上

この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要です。

最後に

気象庁では、線状降水帯による大雨の可能性がある程度高いと予測できた場合に、半日程度前から気象情報において呼びかけを行っています。

線状降水帯による大雨の正確な予測は難しく、線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを行っても必ずしも線状降水帯が発生するわけではありませんが、この情報が発表された場合は大雨災害に対する危機感を早めにもっていただくことが重要です。また、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等が必要です。

大雨警報やキキクル（危険度分布）等、段階的に発表する防災気象情報全体を適切に活用してください。